

よきおとずれ

カトリック釧路教会だより
第 21 号 聖母の被昇天 (2021 年 8 月 15 日) 発行



祈り、祈り、祈り

マウリリオ・ラザロ 神父

兄弟の皆さん、主の平和が皆さんの心を満たしますように。

自分の生活のなかに、また周りの世界中に起こる出来事を見て、イエズス様の言葉が私の心に浮かんできました。「求めなさい。探しなさい。叩きなさい。そうすれば、望みが叶えられる。又、祈りなさい。たえまなく、祈りなさい。誘惑に陥らないように、祈りなさい。」それで私の心のうちに「祈り、祈り、祈り」やはり、祈りが必要だと強く感じました。なぜなら「神によって建てられる家でなければ家を建てる人の骨折りはむなし」(詩編 127)。

それで、マリア様はファチマの子ども達に切に勧めたことは、祈りと犠牲をしなければなりません。神様を忘れて、地獄に落ちる人々が多いので、彼らを救うためにも祈りと犠牲を捧げることによって彼らを救うことが出来るでしょう。

今の世界の状況を見ても今までより、もっと祈らなければなりません。まず自分のために、家族の人のために世界の人々のために、そして罪を償うために、罪の赦しをいただくために、より良く天の父である神様との親しみを深め味わうように。ファチマの子ども達は、すべてをつくして命を捧げる程、マリア様の呼びかけに応えました。彼らの模範的な生活をみて、祈りと犠牲をもっと捧げなければと強く感じました。

皆さん、私たちはファチマの子ども達のように喜んでマリア様が呼びかけられたロザリオの祈りと犠牲を捧げましょう。



特別寄稿：フォコラーレの亀井さんから

♪^{あめ}天のきさき、^{てん}天の門～

小さき花のテレジア 亀井 みえ

私は、中学、高校、大学にかけて、宗教は、人間が心のよりどころを求めて作ったものだとずっと信じていました。

そして、「神は本当におられるのか？」という、何年にもわたる心の苦しみの末、1966年に東京の聖イグナチオ教会で洗礼を受けました。毎日、仕事の帰りに、お聖堂に行き、祭壇に向かって左側に立っていらっしゃる白いマリア様のご像の前に跪き、「あなたは誰方ですか？教えてください。」と祈っていました。すると不思議なことにマリア様はいなくなり、私はいつの間にかイエズス様とお話しておりました。

「どうして？」

後で分かりました。マリア様は、天の門ですから、私達は開いている門から出入りして、イエズス様と出会います。閉まっていたら門ではなく、壁とか塀ですからね。そして、いつもイエズス様と一緒にいたいと願っていましたが、フォコラーレの集いで「みことば」を日々の生活の中で生きることを教えてもらいました。当然のことですが、いつもいつも「み言葉」は私の心に生き生きとしていて、チャンスを逃すことなく実行に移すことが出来ました。いつもイエズス様と一緒に生きていたあの頃の充実した毎日を、50年以上経った今も思い出すことが出来ます。

* フォコラーレについて

カトリック教会の中で生まれた共同体で、『皆が一つになるように』（ヨハネ 17・21）というイエスの最後の祈りの実現をめざして、キアラ・ルービックと数人の仲間から始まり、今も宗教を問わず、すべての人との対話を通じて、世界の平和、一致した世界をめざして活動しています。

新型コロナウイルスが流行する前には、亀井さんが年に数回、釧路教会やアントニオ修道院で「いのちの言葉の集い」を開催されて



ヨゼフ会に思う（追憶）

マリオ・カルメロ 佐藤 昭吾

令和3年2月、今後のヨゼフ会のあり様について、話し合いが持たれた。10名程の参加だった。

ヨゼフ会の会長のKさんが親の介護のため、ご夫婦で離釧された。これを機会にヨゼフ会の現況と今後どうあるべきか？との話で参加者一人ひとりの意見を聞きつつ進行していった。

現状はシニア世代の数名が活動しているのに過ぎない事が浮き彫りになった。ご多分にもれず、組織としての弱体化は目にみえていた。真に“^{ふうぜん}風前の^{ともしび}灯”である。

何故…このような事態になったのか？それは言う迄もなく、後継者が不足しているからだ（いないからだ）。

代々、諸先輩が築いてきて連綿と続いてきた

ヨゼフ会の灯を消してはならないのではないのか？世代を乗り越え次の世代へと引き継ぐべきではないのか？等々の意見が出たが、暫し“沈思黙考”が続く。種々の意見、考え方が浮上したが、現状回復は難しいとの意見が支配的になり、解散止むなしの結論に至った。誠に慚愧に堪えない思いである。

“温故知新”の格言がある。シニア世代の知恵と経験を知り、シニア世代もヤング世代も歩み寄り垣根を越え、融和してほしい。シニア世代はややもすると固定観念に拘る傾向がある。つまり、今まではこうだから…、とかこれが代々続いているから等々。他方、若者は多様性を重視する傾向が見受けられる。固定観念に拘ることを嫌う。双方歩み寄り、融和できないものか？代々、連綿として続けてきたヨゼフ会という組織の灯を消してはならない。消滅させてはならないのだ！！

私がヨゼフ会の一員として活動に参加したのは今から四十年程前からである。それはバザーの行事で、“焼き鳥”の販売である。これは同年代のWさんと2人共、焼き鳥は初めての経験、要領を得ず、煙が目にはしみ、涙ポロポロ落としながら“悪戦苦闘”、その甲斐あって予想を上回る売り上げ、完売である。関係者より、感謝の言葉をいただき、労ってもらった。焼き鳥は1年で終わったが、その

後、テントの設営に回った。テントの杭の運搬は殊の他の重労働で1年でリタイアした。それ以後は別の仕事のお手伝いをさせていただいた。

次にアンナ会の皆様に日ごろの感謝をこめて、カレーライス of 料理を提供した。それからアンナ会の皆様と共に教会内の清掃、受付の当番等、現在に至っている。

テントの設営、カレーライスづくり、受付窓口の当番等は先輩のTさんとのコンビで同じ樺太からの引揚者の誼みで大変親しくさせていただいた。残念ながらTさんは故人となられた。

現在はヨゼフ会のKさんと。同年代で共に八十路迄は元気でガンバローと今も年賀状での繋がりをいただいている。

この様に私もヨゼフ会の方々とのつながりに感謝しつつ教会に足を運んでいる。

皆様に神の御加護がありますように
…Good Luck



主の平和

マリア 栢澤 弥生

釧路でもようやく夏らしい陽射しを感じるようになりました。今度、富良野教会から転入して参りました栢沢弥生と申します。

円山教会で洗礼を授かってから十数年、経ちますが、当時、療養のため札幌へ来ていた両親と居たころ、周囲に数多くある教

会に興味本意で足を運んだのがきっかけです。親切にお世話して下さった信者さんのおかげで、その秋に洗礼に授かることができました。

その後、円山教会へ主任司祭としていらした勝谷神父様（現在の司教様）が着任してからは、それまで数少なかった若者の信者が集まるようになり、青年会も立ち上がり、私にとっても教会へ来る楽しみが増えました。

釧路教会へ来るまでの間に私はいくつかの教会を回って来ましたが、何処へ行ってもいつも温かく受け入れて下さり、真っ直ぐで献身的な信者の方々を見ていると、自

分が愚かに思えて教会の中では善人でいようとする自分がいます。主人に時々「それでもあなたは教会の人間か」と言われますが、「だから神様にごめんなさいをしにくいのよ」と返しています。教会の一步外へ出れば、私もエゴイストな人間の一人です。

これまで教会とのつながりを断ち切らず、つないでくれたのは、いつも温かいお言葉をかけて下さる神父様や信者の方々のお陰だと感謝しかありません。

これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。神に感謝



編集後記

主の平安

長いコロナ禍のなかにあって、ともに分かち合いたいとある姉妹が、私にお手紙をくださいました。挫折してエマオへ向かう弟子たちに「近づいて、一緒に歩かれた」イエス様の福音です。生活の自由が奪われ、先が見えない、教会の典礼に与れない、独りぼっちで不安を感じる日々の生活にあって、このメッセージは大きな慰めと勇気を与えてくださいました。わが姉妹に感謝です。

“恐れるな、あなた方といつもともにいる”この力強いイエス様のみ言葉、今私たちが最も必要としている時ではないでしょうか。聖歌「ガリラヤの風かおる丘で」と共に。

神に感謝 (M.W)

カトリック釧路教会 <https://kushiro-catholic.cloud-line.com/>

〒085-0018 釧路市黒金町 12 丁目 10

TEL 0154-22-5823 FAX 0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会